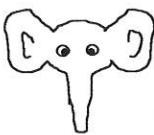


# やりみち

…仮設支援情報…



第53号 発行日 98.7.28

## 被災地NGO協働センター

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6

TEL: 078-685-0068 / FAX: 078-685-0071

E-mail: SHB00846@niftyserve.ne.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

ぐずついた天気が続いていると思えば、関西の今年の梅雨は史上何番目の長さだとか。晴れたら暑いし、雨が降っても蒸すし、そんなこんなで体がだるいという人も少なくないようです。お身体大切に！



## 被災地に残された課題は 生きがいづくり・しごとづくり

この7月17日で、阪神・淡路大震災の発生から3年半が経過しました。この間、高速道路や鉄道・港湾の復旧は進みましたが、被災者のくらしの再建は、未だ道半ば……というより、震災前よりも大きく落ち込んだままなのが現状です。仮設住宅から恒久住宅への移行やそれに伴うコミュニティの変化など、様々な問題を抱える被災地ですが、中でも震災復興の「やり残し」として課題になっているのが「生きがいづくり」「しごとづくり」です。この程まとめられた支援団体へのアンケート調査では、支援対象者にとっての問題点として、回答団体の実に4割が「仕事がない」「生きがい・意欲がわからない」ことを挙げています。

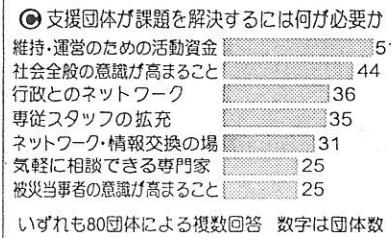
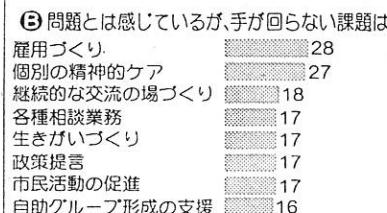
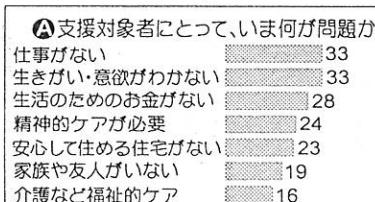
震災の打撃に慢性化した景気の低迷が追い打ちをかけ、被災地では中小企業の倒産件数が増大しています。また震災後3年を経て復興事業が一巡したこと、建築関係を中心に求人も激減。被災地における雇用機会の減少が、くらしの再建に取り組もうとする被災者にとって二重の打撃となっているのです。

被災地NGO協働センターでは、昨年7月より「まけないぞう」事業を推進、展開してきました。全国から寄せられたタオルを被災地で加工、販売するこの事業は、事業開始後一年を経た現在、約50人の方がぞうさんの生産に取り組んでいます。多い人で月7万円、平均でひと月当たり3~5万円という収入になっています。

「縫いながら『頑張らなかん』と言い聞かせてる」「自分の分身のようで楽しみながらやってます」「『私たちも負けずに頑張るゾウ』と話しかけながらつくってます」~ぞうさんを製作している人の声からは、この事業が被災者の生きがいづくりに一役買っていることが分かります。みんなで集まって作業をすることで、人のつながりも出来てきます。

雇用問題については、先ほどのアンケートの回答では35%の団体が、対策の必要性が強く意識されているものの手が回らない課題として挙げています。生きがいづくりについても2割の団体が手が回らない課題としています。

「まけないぞう」はまだ小さな芽かも知れません。でも全国のみなさんに支えられながら、少しずつ被災地の「生きがいづくり・しごとづくり」のニーズに応えています。



いずれも80団体による複数回答 数字は団体数

いま足りないものは、仕事と生きがい。阪神大震災から3年半になるのを機に「エイドの会」は、被災地支援に取り組む団体を対象に、被災者や各団体の現状と課題を問うアンケート調査をこのほど行った。回答寄せたのは多様な分野の八十団体。集計結果からは三年半の震災復興の「やり残し」が浮かび上がっている。

(宮沢之祐記者)

エイドの会、課題などアンケート  
震災から半年 復興のやり残し浮上

「仕事、生きがい」不足

私たちは大きなことはできません。

ただ小さな愛をもってやることはできます。(マザー・テレサの言葉より)

(7月7日 神戸新聞)

…仮設支援情報…

# ‘98フェリシモ もっとずっときっと プロジェクト

(株)フェリシモは、衣料、ファッショングoodsなどのカタログによる通信販売の業界最大手の企業の一つです。OJや主婦層を中心に全国に数十万規模の顧客を持ち、カタログというメディアを通じ、ファッションを越えたさまざまなメッセージを発信しています。

その一環としてフェリシモでは、阪神大震災をきっかけに、「毎月100円義援金」を全顧客に呼びかけました。カタログの商品アイテムと同じようにこの「毎月100円義援金」を選んでいただくと、毎月の商品の請求に100円プラスされるというしくみです。

こうして集められた義援金で、展開されている支援事業のうち、ボランティア活動への支援「フェリシモ、もっと、ずっと、きっとプロジェクト」を、’96年度、’97年度に引き続き、’98年度も被災地NGO協働センターと協力して進めていくことが決定しました。

フェリシモ「もっと、ずっと、きっと」プロジェクトは、被災地NGO協働センター参加団体の共同プロジェクトとしてスタートしました。これは参加団体が協力して推し進めるもので、横のつながりを広め、各団体の活動をより効果的にし、また変化する被災地の状況に対応していくことにより、仮設住宅などにおける被災者支援をしています。

’98年度は被災者もボランティアも大きな転換点に立ち、状況変化に対応するために、共同プロジェクトも全体で取り組みます(’98年度は24団体が参加予定)。また「フェリシモプロジェクト事例検討会」を実施します。これは、一人ひとりの事例について検討し、よりよい個別対応を行うことを目的としています。と同時に各団体の活動の支援と情報交換を全体でしていただき、お互いに交流を深めながら、ボランティア自身も元気になっていただきたいと考えています。

## 一人ひとりの自立を支えあう、豊かな地域社会の実現をめざす

### 〈基本方針〉

震災後4年目を迎え、災害後の非常時を過ぎ、また仮の生活を終えようとしている今、フェリシモ「もっと、ずっと、きっとプロジェクト」は、「地域社会」での支援活動へと目を向けていきます。地域の団体(自治会、婦人会、民生委員など)にも協力して良い関係づくりを期待します。

### ①高齢者福祉・医療・保健

仮設住宅に残る高齢者の生活支援、介護・看護補助を引き続き続けるとともに、恒久住宅へ転居された高齢者・独居世帯などについてもきめ細かな支援を展開します。高齢化社会を目前にして、「コミュニティ」の重要さや、「命を守る」福祉行政の貧困さなど被災地で浮き彫りになった数々の問題は、これからも勉強課題です。

### ③生きがいづくり

手芸や園芸、あるいは茶話会やバザーなど、フェリシモ「もっと、ずっと、きっとプロジェクト」過去2年の成果を、住民たちによる自立的な形で発展させ、生きがいを見出してくださいと期待しています。

### ⑤文化の創造

震災後、ひたすら消耗を強いられてきた被災地の人々の心に「ルミナリエ」の光が灯ったように、「心の復興」に実は一番必要なのは「新しい文化」だと考えます。フェリシモ「もっと、ずっと、きっとプロジェクト」初年度からのコンセプトである「ボランティア文化の発信」もその一つとしてとらえ、日常生活の中で自然に人を思い、助け合う心を育て、それを世論に形成していく努力を続けます。心やさしい人が多くなるとうれしいですね。

### ②地域教育

「子どもたちが変だ！」暴力事件などさまざまな問題は、地域の取り組みなしで解決はありません。子どもの問題は、おとなとの責任、みんなで考えましょう。

また、少子化傾向による学校の空き教室の地域への開放と利用を促進し、地域交流や生涯学習にも目を向けています。

### ④雇用機会及び

### コミュニティビジネスの創出

被災地の雇用問題は深刻な課題です。「生きがいづくり」から一步踏み込み、「仕事」の域に達する事業を展開することを目指します。また、NGO/NPOのさきがけとなる、被災者支援あるいはコミュニティを利用した「コミュニティビジネス」の創出をめざします。たとえば、商品開発カタログ販売、移送サービス、配食サービス、各種サービス取り次ぎ店など、身近に有れば生活に重宝するというものをいろいろ考えてみてください。

### ⑥情報発信・アピール

みなさまから寄せられる報告を基にして、従来の紙媒体に加えて、FAX情報サービス、インターネット等を通じて全国及び関係機関に発信し、支援を呼びかけるとともに、被災地に限らない「一人ひとりが自立を支えあう豊かな地域社会」について提起します。

「被災者は、もっと考えられていい。ボランティアは、ずっと考え活動し続けていい。そうすれば、きっと豊かな地域社会が生まれるだろう」

....仮設支援情報....

# ええかけんにせ～！！

7月17日、兵庫県は仮設住宅の供与期間を来年3月末まで半年間延長を発表しました。理由は9月末で8,000世帯、来年3月末でも4,000世帯が残っている可能性があるということからです。

県知事は今年1月17日、「今秋の仮設解消」を発表し、それに対して現場を預かる神戸市は「今秋の仮設解消は不可能。半年延長を」と一貫して訴えていました。県はこの半年間かたくななまでに「今秋の仮設解消」を言い続けていたにもかかわらず、何故急に撤回したのでしょうか。誰の目から見てもとても不可能なことを言い続けてきたのです。1995年震災の年、仮設への最初の入居時にも同様のことがありました。「仮設の入居期限は1年」と言っていたのを1996年1月には「2年」と修正したのですが、この時でも大方の予測は「1年どころか5年はかかる」と見ていたはずです。

知事は被災者のことを思うが故に仮設の早期解消を考えているのでしょうか？被災者の気持ちをどれだけ理解できているのでしょうか？「もう、ええかけんにせ～!!」と言わざるを得ません。被災者は将来にわたっての暮らし再建の見通しをまず立てたいのです。目の政策を何度も発表してもその度に被災者にとって不安にかられるという心情を理解できないのでしょうか？



県は仮設の9月末解消を目指して、なんと(!!)月額7万円補助という「入居待機者支援制度」を発表しましたが、契約は69件にとどまったのです(対象は3,700世帯)。これほどの高額の補助制度でありながら何故このようなミスマッチが起こるのでしょうか？

被災者は4度目になる新しいコミュニティづくりに疲れ果てているのです。何度も何度も新しい人間関係をつくるのは、もう限界なのです。やっとの想いで災害復興公営住宅に入居しても結局重い鉄の扉を閉ざし、閉じこもり現象が目立っています。

仮設住宅を「簡易公営住宅」と規定を変更するよう提言したいと思います。さらに市街地に多数存在する空き地の有効利用として、極小規模の「簡易住宅」を建設することもあわせて提言します。大都市直下型大地震を体験した被災者の中には、高層住宅に入りたいとは思っていない方も少なくないでしょう。選択肢を増やし、よりきめ細かい施策を望みたいと思います。被災者は「人のぬくもり」を求めているのです。

私たちは震災で気付いたのです。従来の価値観、「モノ」にこだわってきた結果が、この震災をもたらしたのだと。「人」「心」にこだわったライフスタイルを築いて行かなければならないことを。

(被災地NGO協働センター代表 村井雅清)

## 「仮設」来年3月まで延長～兵庫県

兵庫県は17日、今年9月末とした阪神大震災被災者の仮設住宅の使用期限について、半年を限度に来年3月末まで延長すると発表した。10月以降も災害復興公営住宅の完成待ちなどを理由に、神戸、西宮、尼崎3市内で計約9600世帯が仮設住宅に残る見込みとなつたため。また、全壊世帯を対象にした最高100万円の被災者自立支援金の支給条件を緩和し、転居先が決まっている場合は、仮設住宅入居中でも対象とすることにした。

県によると、今月1日現在の仮設住宅入居は1万3789世帯。10月以降も残ると見られる世帯の内訳は、神戸市内8000▽西宮市内1500▽尼崎市内80。仮設住宅の設置は災害救助法で2年と定められているが、特例で昨年3月と今年3月、それぞれ1年半と半年、延長している。

神戸市では、先月の災害復興住宅の抽選で約2000世帯が抽選に外れ、市が県に仮設使用期限延長を要望していた。

(7月18日 毎日新聞)



未使用

テレフォンカードく・だ・さ・い



## 《仮設は今。。。》

須磨区編

3年前70世帯だった須磨区のM仮設住宅も、今は41世帯(98年6月現在)、そしてこの8月には12世帯が引っ越し、さらに99年5月、7世帯が引っ越し、残りは22世帯、そのほとんどが高齢者の人たちである。

「よかつた十一、元気でね」と引っ越し人を見送る人の気持ちは複雑。「わしらは、いつになつたら…」と不安も募り、つい沈みがちになられる。配食サービスで伺うと「人数が少なくなると、モーニング喫茶も配食も無しになるんやろー?」と言われる。「心配しなくて一人になつても最後まで来させてもらうから」と言うと、「ほんまかー」と笑顔になる。その一方、引っ越しされる方も、大震災後の仮設住宅生活は、炊き出し、各種イベント、自治会のバス旅行、お茶会、暑い・寒いの春夏秋冬、悲喜こもごもの3年間だったと思う。

「住めば都」の言葉通り、仮設のみなさんとの別れはつらそう。恒久住宅での一人暮らしの不安も重な



り、これも又複雑な様だ。月一度の「モーニング喫茶」に引っ越しされた方が「ここがエエワーゲン」と皆に逢いに来られる。恒久住宅では人数は増えるが、ドア一つで、そこは静かな一人暮らし。まだ馴染めないらしい。ひとしきり、仮設での思い出話に花が咲く。

震災で昔から続いたコミュニティを失くし、今、又、仮設住宅でやつと作り上げた二つ目のコミュニティとの別れが待っています。新しい所でのコミュニティがぜひ明るい良いものであつてほしい。

今日も仮設住宅では、ボランティアによる引っ越しサービスの車と人の出入りで賑わう。しかし夜になると、昨日より確実に人数が減り、仮設住宅はもっと静かになる。あちこちの仮設住宅でもこの様な状態がこれから暫く続く様です。そして私たちの活動もまだまだ必要な様です。小さな明るいコミュニティを求めて、まだまだ続きます。

(ゆいまーる神戸 玉岡)

配食・移動サービスのボランティアを求めて  
います!! 詳しいことは「ゆいまーる神戸」  
078-792-5728までお電話下さい。(石井・玉岡)

## ご入会ありがとうございました (敬称略・'98年4月1日~7月25日)

【団体会員】アート・エイド神戸実行委員会、青い空☆KOBE、(財)大阪キリスト教女子青年会 こころのケアプロジェクト、かみひこうき、カリタス大阪、グループ・アバウト、ぐるうぶ・えん、コリアボランティア協会、金剛寺、週末ボランティア、ジョイの会、宗泉寺、小さな友の会、都市生活地域復興センター、西ネットワーク、西宮・地域助け合いネットワーク、(社)日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)、阪神高齢者・障害者支援ネットワーク、阪神大震災子どもを助ける会、東灘・地域助け合いネットワーク、被災地障害者センター、姫路こころのケアネットワーク、ひょうごネット、ファミリー神戸、プロジェクト結ぶ、プロジェクト1-2、poco a poco 鹿取、ボランティアグループシティライト、マイム・マイム、ゆいまーる神戸、ロード

【個人会員】生田 茂夫、井上 節子、大竹 慶明、工藤 泰子、小林 明子、小林 淳郎、斎藤 進、斎藤 由美子、貞富信裕、鈴木 和博、鈴木 昇、鈴木 富砂代、高城 力、中尾 結樹、榛木 恵子、平松 孝子、古市 由希子、三島 知斗世、室崎 益輝、森反 章夫、山本 美希、吉田 初江、脇本 寿

【賛助団体会員】神奈川県高等学校教職員組合、ぐるうぶ温、神戸YMCA、新聞労連近畿地連、日本バプテスト連盟阪神大震災現地支援委員会、不動院、法然院、医療法人社団もりもと、結ふくおか~

【賛助個人会員】石井 貴志子、大谷 順子、大西 光子、大平 芳央、川野 美和、熊野 黙寛、熊野 勝之、黒田 一美、小林 直哉、西郷 佳代子、佐々木 恵津子、下村 健一、鈴木 栄一、田代 裕子、内藤 陽子、前田 圭子、松本 浩一、前堀 寿久、松下 ちた子、馬庭 京子、宮地 将人、森下 芳地、山本 亜紀子、横山 明泰、李 章根

【自由洗濯会員】太田 和美、桜井 伊佐子、高山 忠士、間中 志津代、山部 三千代、若松 亮太

....仮設支援情報....

緊急救援

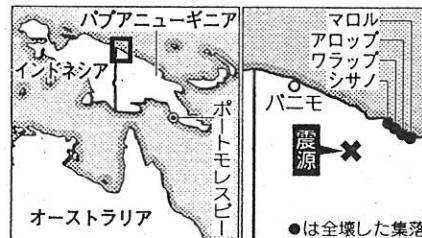
# パプアニューギニア 地震津波

1998年7月17日 M7地震津波 死者1500人以上 非常事態宣言

パプアニューギニア(PNG)は、今世紀最大のエルニーニョによる干ばつとそれによる生活破壊(97年5月～11月)からようやく立ち直ろうとしていた矢先、7月17日、今度はM7を越える地震と巨大な津波によって数千の命が奪われました。オーストラリアから独立して23年、まだ国の基礎づくりの段階を脱していない開発途上のPNGにとって、このダブルパンチは民族の自立を揺るがしかねない大災害です。

私たちは、干ばつ・飢餓救援活動を担っていたPNG教会協議会(PNGCC－同国最大のNGOネットワーク)をカウンターパートとして緊急救援活動を継続したいと思います。

現地の状況は地元の人が一番良く知っています。長く緊急救援活動を実施してきたPNGCCからの支援要請は、当面の救援体制を組み上げることと、最小限の食糧・医薬品・避難小屋再建の資材および家庭菜園開設のための農具など総計約300万円程度です。私たちは救援物資を送るよりも、現地の要請に基づき300万円の現金を送り、その立ち上げの支援をしたいと思います。非常事態宣言が出されるなど事態は深刻化していますので、当実行委員会委員長・草地賢一が急遽現地入りすることになりました。皆さまのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



A P  
20日、パ  
アニュ  
ギニア  
ア北西部のシッサンノ村  
で孫6人を亡くしがれ  
きの上に座り込む男性||

## ・パプアニューギニアNGOの救援活動を支援

(政府・国連などの救援活動より大きい、そしてきめの細かいネットワークを持つPNG最大のNGOであるパプアニューギニア教会協議会を支援)

- ・募金の振込先： 郵便振替 口座番号 00970-7-39728
- 加入者名 阪神大震災地元NGO救援連絡会議

\* 通信欄に「パプア地震津波支援」とお書き下さい。

## パプアニューギニア地震津波・緊急救援実行委員会

神戸国際協力センター・神戸国際交流協会・神戸YMCA・PHD協会・コープこうべ・阪神大震災地元NGO救援連絡会議・被災地NGO協働センター・震災がつなぐ全国ネットワーク・NGO外国人救援ネット・兵庫県国際交流協会・神戸YWCA・東京YMCA・神戸華僑総会・災害救援研究所・くるりん自然災害基金運営委員会(順不同・7.22現在)

事務局：〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6 被災地NGO協働センター気付

阪神大震災地元NGO救援連絡会議 (村井・細川)

TEL:078-685-0068 FAX:078-685-0071

## ....仮設支援情報....

## 阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会 1997年度決算報告

1997年4月1日～1998年3月31日

## 1.一般会計

(収入の部)

	予算額	決算額	備考
寄付金	9,000,000	16,047,454	
助成金	2,000,000	1,804,869	*1
講演料	1,500,000	386,100	
販売収入	1,620,000	548,940	
事業収入	2,040,000	1,029,515	
会費収入	1,300,000	623,000	
受取利息	5,171	4,322	
雑収入	0	1,887,723	
前期繰越金	15,709,829	15,709,829	
合計	33,175,000	38,041,752	

(支出の部)

	予算額	決算額	備考
<事業費>	17,958,800	9,498,981	*2
広報	4,920,800	2,827,876	
ネットワーク	6,400,000	3,928,775	
ボランティアコーディネート	130,000	95,400	
提言・提案	624,000	191,954	
基盤強化	1,740,000	621,891	
収益事業	1,880,000	666,199	
研修・視察	1,194,000	484,929	
その他の活動	1,070,000	681,957	
<管理費>	12,486,000	12,071,371	
スタッフ活動費	6,000,000	4,840,000	
備品購入費	250,000	548,605	*3
車両購入費	2,900,000	3,498,320	*4
その他管理費	3,336,000	3,184,446	
<その他>			
事務所移転関係費	1,000,000	3,020,000	
雑費	200,000	360,465	
予備費	200,000	5,238,823	*5
当期支出合計	31,844,800	30,189,640	
次期繰越金	1,330,200	7,852,112	
合計	33,175,000	38,041,752	

## 2.特別会計

(収入の部)  
1)(株)フェリシモ もっと・ずっと・きっと プロジェクト関係

	決算額	備考
自己資金(プロジェクト参加団体)より	8,620,541	
(株)フェリシモより助成金	28,048,100	
前期繰越金	2,738,070	
	39,406,711	

(支出の部)

	決算額	備考
総事業費	36,765,978	
次期繰越金	2,640,733	
	39,406,711	

## 2)共生・共創センター「もやい」関係

(収入の部)

	決算額	備考
事業収入	7,165,308	
寄付金	27,390	
助成金	2,728,249	*6
雑収入	202,354	
自己資金(連絡会)より	5,238,823	
	15,362,124	

(支出の部)

	決算額	備考
スタッフ活動費	1,851,500	
通信運搬費	376,285	
事務消耗品費	1,026,092	
商品仕入費	6,303,914	
商品開発費	564,683	
材料費	486,780	
印刷費	1,102,355	
備品購入費	301,130	
工事関係費	2,524,427	
その他事業費	824,958	
	15,362,124	

## &lt;備考&gt;

- \*1 生活復興県民ネットより600,000円、日本財団より事務所維持経費として1,204,869円
- \*2 各事業費にはスタッフ活動費を含む
- \*3 パソコンおよび関連備品導入
- \*4 トラックおよび関連備品購入
- \*5 共生・共創センター「もやい」事業費
- \*6 阪神・淡路コミュニティ基金より

## 被災地NGO協働センター 1998年度予算案

1998年4月1日～1999年3月31日

(収入の部)

	予算額	備考
事業収入	24,000,000	*1
預託事業収入	600,000	*2
販売収入	300,000	
寄付金	9,500,000	
助成金	10,460,000	*3
会費収入	500,000	
	45,360,000	

(支出の部)

	予算額	備考
<事業費>		*4
1.広報	3,681,680	
2.情報交換	216,000	
3.生きがい・就労促進事業	25,201,920	
4.コーディネート	2,720,000	
5.ネットワークづくり	1,890,000	
6.フリースペースの設置	360,000	
<管理費>		
スタッフ活動費	2,160,000	
事務所賃貸費	2,160,000	
事務所敷金	2,000,000	
旅費交通費	840,000	
機器賃貸費	1,200,000	
電話代	1,440,000	
水道光熱費	480,000	
車両維持費	700,000	
<その他>		
予備費	310,400	
	45,360,000	

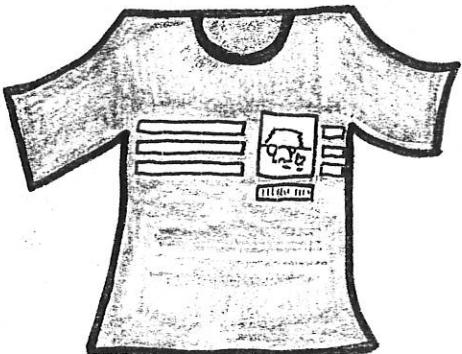
※ 決定が遅れたためここに掲げた予算には計上していませんが、1998年度も、(株)フェリシモ様のご支援を頂き、フェリシモ「もっと・ずっと・きっとプロジェクト」を実施することになりました(内容については別ページ参照)。事業予算は30,000,000円の予定です。

## &lt;備考&gt;

- \*1 まけないぞう事業による収入
- \*2 市民とNGOの「防災」国際フォーラム事務局受託
- \*3 うち阪神・淡路コミュニティ基金より5,000,000円
- \*4 事業費の1～5にはスタッフ活動費を含む

....仮設支援情報....

# 「ぞうTシャツ」 をつくっちゃいました！



1枚 1,000円

色・サイズは、  
 赤：Lのみ  
 青：Mのみ  
 紺：Lのみ  
 緑：M・L です。

## なつだねえ！

ということで、新登場のアイテム。なかなか好評なデザインで、試しに持っていった関東方面のバザーでも、ポンポン売れてしまったそうです。デザイナー＆プロデューサーの鈴木隆太からアナウンスです。

「いつも『まけないぞう運動』に御協力いただきましてありがとうございます。」

さて、今回ついに『ぞうTシャツ』を作りました。

夏の暑い日に、パジャマに、いろいろ使えるこのTシャツ。色は、赤・青・紺・緑の4色で、デザインの部分は全て白です。

この暑い夏を、『ぞうTシャツ』でのりきりましょう！！

問い合わせ：被災地NGO協働センター

TEL:078-685-0068 FAX:078-685-0071

## イベント情報

### 「被災地支援&障害者支援」

#### チャリティ美術展inながた

多数の芸術家有志の方々が、「作品販売上金で被災者支援」と展開している全国巡回チャリティ美術展が、「はあとギャラリー」オープニングに伴い神戸に戻ってきました。期間中、展示作品は随時交換していますが、ご興味のある作品は提示しますのでお申し付け下さい。コーヒータイムと共にお選びいただけます。

日時：1998年9月1日(火)～30(水)

10:00～18:00 ※月曜日休み

場所：ハートワーキングクラブきつさはあと  
神戸市長田区西代通3-10-16

板宿駅・西代駅・新長田駅より徒歩7分

主催・問い合わせ：コリアボランティア協会

TEL/FAX: 06-717-7301

振替口座：00920-6-29408  
(カンパ協力もお願いします)



## センターの動き 6月末～7月



6/26(金)～29(月) 福井地震50周年記念イベント(福井)

6/28(日) エイドの会フリートーク参加(神戸・中央区)

7/1(水) センターサロン

7/3(金) 尼崎裁判傍聴/センター会議

7/4(土) 情報ボランティアシンポジウム参加(神戸)

～5(日) NPOフォーラム参加(大阪)

7/6(月)～8(水) 村井くん東京出張

7/10(金) センター会議

7/11(土) 「まけないぞう、3万個達成!!

7/15(水) 英VNP0シンポジウム参加(神戸・フェニックスプラザ)

センター会議

7/16(木) センター会議

フェリシモプロジェクト説明会

7/17(金) やつたろ会

7/19(日) 西宮探訪フェスティバル/ぞう販売(西宮)  
市民がつくる復興計画ワークショット(京都)

7/20(月) 神戸まつり/ぞう販売(神戸)

～21日(火) 村井くん、島原(長崎)出張

7/23(木) センター会議

7/25(土)～26(日) 村井くん宮崎出張

7/26(日) PNG地震支援、草地委員長現地へ(～8/2)  
福島より研修受け入れ(神戸・東灘区)

7/28(火) じやりみち53号発行

フェリシモプロジェクトセミナー

7/30(木) センター会議

7/31(金) 尼崎裁判傍聴

# ぞう 通信。

発行所：神戸市中央区東川崎町7-2-6 TEL 650-0044  
被災地NGO協働センター

第6号 1998.7.28



♥おかげさまで第6号！！♥

「まけないぞう」「一本のタオル運動」を始め、一年が経つた7月「まけないぞう」が3万頭を達成しました。これも全国の支援者の皆さんのおかげだと深く感謝致します。本当にありがとうございます。この運動を通して温かな人の輪・愛の輪が拡がり、「支え合い」の社会を育んで行きたいと思っています。

## 作り手のメッセージ

ぞうさんを作り始めて、友人との輪ができる事、友人が友人にと広がりつつある。ぞうさんを作っていると苦しい事や悲しい事も忘れてしまう。ぞうさんができると気分がなごみ、又がんばらなければと思います。

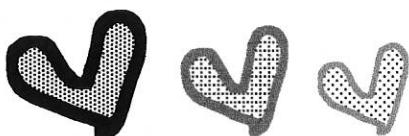
本当にぞうさん、ありがとうございます。  
言いたいです。

# 祝3万頭！ 手にしたのは、 大阪にお住いの高橋さん♥

3万頭目に当たった高橋さんのところへ「まけないぞう」と記念品を届けに行きました。

そこへたまたま居合わせたのが、高橋さんが神戸へ来て以来お世話になっているという板宿のあばちゃんでした。お二人とも笑顔いっぱい記念品を受け取ってくれました。

「まけないぞうを応援してくれた人にあげるたびとても喜ばれるのです。ある友人は仕事で落ち込んでいた時、まけないぞうが届き私も頑張るぞう」とお返事を頂いたそうです。「私も誰かを支えているのね」と・・・。



## 応援メッセージ

使うのがもったいないくらい、可愛いといふに好評です。「まけないぞう」を縫つていろいろ皆様の暖かさが伝わってくるようです。これからもどうか身体に気を付けて頑張って下さい。和歌山の空の下でも応援します。

住吉物語

Part 1

毎週水曜日、住吉公園仮設のふれあいセンターで「まけないぞう」作りが行われています。仮設の方や近隣にお住いの約10人の方々が参加されています。

「まけないぞう」を作りながら「手放すのがとてもおしい。まるでお嫁にあげるような気分やわ。でもせつかくお嫁さんにいくんやつたら、美人に作つて、かわいがられるんよ。名残おしいわ」とそんな会話をしながら、一針一針心を込めて作っています。中には製作費の100円を「自分だけでもらうではなく少しづつみんなで貯めて、何かの役に立てたいな」という声もきかれました。

